

水木しげる氏

表紙絵

＝朝は寝床でグーグーグー♪＝

表紙絵：水木しげる

- | | | |
|-------------------------|-------|-----|
| ・ 私のすすめるこの一冊 | | 2～6 |
| ・ 第45回 樟まつり-共に生き, 共に学ぶ- | | 6 |
| ・ 図書館の新しいサービスのご案内 | | 7 |
| ・ 地域ゆかりの歴史・文化・伝統 | | 8 |

私のすすめるこの一冊

毎年恒例の皆さんからお寄せいただいた「私のすすめるこの一冊」です。
今年はどんな本と出会えるでしょうか。

『クラバート』

プロイスラー著 偕成社 <推薦者：井上暁子>

ドイツ児童文学の巨匠プロイスラーが11年の歳月をかけた大作で『大どろぼうホッツェンプロッツ』などの楽しい作品とは全く違った作風の長編小説である。著者が少年の時に出会ったクラバート伝説をもとに書かれている。舞台は17C終わりのザクセン選帝侯国ラウジッツ地方。ヴェンド人のクラバートは不思議な夢に誘われるように、荒地の水車場の見習いになった。水車場の仕事をしながら、親方から魔法を教えてもらう生活が始まる。ところが大みそかの晩、信頼していた職人の一人が謎の死を遂げてしまう。そして一年が過ぎ、また大みそかの晩に同じことが起こる。クラバートがこの謎にどのように向き合っていくのか？抑えた表現で力強く描かれている。人を信じる力の強さ。思慮深くふるまうこと。子どもの時におもしろく読んだ作品だが、その後何度読んでも深い感銘を受ける。

『高円寺純情商店街』

ねじめ正一著 新潮社 <推薦者：佐々木 功>



とにかく面白いの一言で推奨致します。著者の実家、江州屋乾物店の実直に仕事一筋の両親と自らも手伝いながら、日常生活を書き現わしています。両親それぞれの性分と働き方、商店街一軒一軒の商売上の付き合い、店主の一部始終を腹藏なく解説してしまってよくもまあケンカにならなかったと思うページもあります。内緒をさらけ出すのですから、そこを笑いで済ませるのは著者のアッケラカンとした人徳でしょうか。子供目線ですから。

どこにでも有りそうな次元の話を文章にして読者の心をつかみ、庶民生活の温かさに同居させる後味の良い小説です。出し汁が良い。私自身は文豪と言われる作家の本が好きですが、この本は出会って本当に良かった。染み染みと人生の一時期を思い返すのにピッタリとはまりました。庶民の悲哀と郷愁、機転と共存共栄。

『「金の卵」転職流浪記』

大宮知信著 ポプラ社 <推薦者：中村達彦>

高度経済成長期から昭和末期までにかけての、とある青年の転職物語で著者の自伝でもある。ニート、フリーターと呼ばれる若者から定年目前の中高年まで幅広い世代に読んでもらいたい。

ギターにはまっていた俺は、ハトを焼いて食おうとした事件を経て卒業し、中卒の奉公人で就職するも1ヶ月で辞めてしまう。以後倉庫勤務、パン屋の調理人、喫茶店員、広告営業、発電所の清掃と様々な仕事に就くが、長続きしない。行きづまってヒッチハイク旅行をした後、兄の新聞作りを手伝うが、これが人生の転機となる。

古き良き時代と懐しむ昭和40～50年代、社会の末端で生き続けた青年がやがて身につけた生き方とは？人生の極意、弱者へ生きるための手引書でもある。

当時の有名なヒット曲、サブカルチャー、風俗などもわかりやすく描かれており、昭和を振り返る上でも手に取ってみては。



『よこまち余話』

木内昇著 中央公論新社 <推薦者：三宅直子>

一度読んだ本を続けて読み返すことは、めったにない。この『よこまち余話』は続けて二度三度と読み、今もまた少しづつ読んでいる。作者は時代小説の名手の女性作家である。小説の背景は明治の末か大正の初めあたり。東京の下町、天神様の神社下の路地の長屋。一年余の移り変わりがきめ細やかに語られる。日本の四季折々の行事。季節毎の魚・野菜・果物、衣替えや花見などが描かれている。登場人物はお針子の30半ばの駒江、昔芸妓だったらしい老婆のトメ、魚屋のおかみと息子二人。糸屋の若者。昆虫好きの青年。どの人物も温もりが伝わってくる。駒江とトメは現世の人ではないらしい。雨降らしと呼ばれる謎の男が時折現われる。それらの風物と人物が能楽の『花伝書』の導きのように、風雅に展開する。魚屋の次男の浩三の小学生から中学生への成長と共に物語は進んでいく。この小説は、人が人を想い、日々をていねいに過ごすこと。そんなゆったりした暮らしを導いてくれた。

『神様のパズル』

機本伸司著 角川春樹事務所 <推薦者：奏音>

この本は天才少女穂瑞と同じ学校の綿貫の二人のお話です。綿貫が穂瑞を学校に連れてこいと大学の先生に言われ迷っていると、同じ大学の聴講生の老人に「宇宙は作りだせるのか。」という質問を受けた。そこでその老人を穂瑞の所に連れていくと、穂瑞は「分からない。」と言った。しかし、次の日に穂瑞は学校に来て、宇宙はつくれるのかについて討論で話そうという。

筆者は日記のように書いているので、時間とストーリーがより具体的に伝わるし、宇宙以外にも卒論や恋愛なども同時に出てくるので、色々楽しめます。



『蕨野行』

村田喜代子著 文藝春秋 <推薦者：久保田充子>

会話の部分が多くとても読みやすい印象の本である。

とは言ってもその会話が独特な山村の方言のようでもあるので、はじめはとっつきにくいかもしれない。しかし慣れるに従って、それが味わい深くなっていく。レン（姑）とヌイ（嫁）の会話が全編に織り込まれ、読む者の心を温かくする。

その村では60歳になる人は、全員が蕨野という山に行かなければならない。所謂姥捨てであるが、檜山節考と違うのは、檜山節考は70歳になると山に捨てられ、座して死を待つのに対し、こちらは小屋に住み自給自足の共同生活をする点である。毎日里に下りて村の人の手伝いをし、その日の糧を得る。身体が動かなくなったら、それは死を意味する。村では飢饉があり、子を減らしたりして自分たちの命を守るのに精いっぱいだ。九人の老人の性格や家族との関係、一人ずつを看取り残された者の心の動きが綿密に描かれている。そしてレンの最期は……想像もしなかった結末である。

『平成大家族』

中島京子著 集英社 <推薦者：久木田いつ子>

歯科クリニックを退職した72歳の夫。専業主婦の66歳の妻。引きこもったままの30歳の息子。二世帯住宅には姑が住んでいて、いっしょに生活していた。そこに、破産した長女一家が同居させてくれと戻ってきた。なんとか落ち着いて生活しているところに、次女が離婚して戻ってきた。しかも、元彼の子を妊娠しているという。

その後、姑が認知症に、孫が不登校にと、現代を代表するトラブルが、次から次に押し寄せる。暗くなりがちだが、読んでみると、なぜか笑ってしまうのだ。

最後は、なんと、引きこもっている長男がネットトレーダーになり、祖母の介護に通っていた若い女性ヘルパーと結婚するというハッピーエンドで終る。

世の中に、こんなうまい話があったらいいなあ。あるかも知れないと思わせる話である。

『ポーツマスの旗』

吉村昭著 新潮社 <推薦者：土井芳江>

その頃、日本はロシアに陸、海戦とも勝利し、戦捷気分には酔っていた。小村寿太郎らが講和会議に出るため、出発したときは、新聞はどれも全権たちの交渉力に期待し、人々は華々しく見送った。

しかし、ロシア皇帝は、日本からの要求を一切受けつけようとしない。

賠償金は一切支払わない。樺太は南半分だけ。

国民は賠償金を払わないなら戦争を続けよと叫ぶ。小村らは窮地に立たされる。

政府は戦いを続けるか屈辱的な条件をのむかで揉めた。山縣参謀総長はひそかに、現地大陸に入り敵を視察する。ロシアの兵力が増強している事を知り、戦うことは無理と上奏する。天皇も講和条件を認め、受け入れる。

怒った民衆は小村らが帰還した時、罵声と投石で迎えた。山縣がもし視察した現状を正しく捉えていなかったら…。第二次世界大戦でも状況を正しく見る目、見る人があったら、もっと早く戦いを終わらせたと思う。



『九十歳。何がめでたい』

佐藤愛子著 小学館 <推薦者：名取末子>

老人社会の日常を代弁して見れる痛快、抱腹連続の中味。全二十九短編、作者独自のユーモアと毒舌、そして暖かな思いやり、日頃難しい本から少しオアシスに入っては如何。

年を重ね面白おかしい事など無い昨今、不満苦言ばかり呈しては恥ずかしい。こんな交わり方もあるのか、人生楽しく生きねばと反省。一編々々が全て日常体験している私達の事柄を捉え方次第でかくも楽しき方向に変換するものかと、大笑したり感心したり。

中にある一編、鼻たれ小僧がいなくなった事。私たちの時代はお腹に回虫をかかえていて、花粉症の元を喰べてくれたとか、そう言えば子供の頃アレルギーや花粉症は居なかったな。さもありなん話の連続、あつと言う間に読み終る。多くの作品を書かれ、人生辛酸を味わった方なので、このエスプリがぼん々々飛び出して、「戦いすんで日が暮れて」夕暮れ近くにまたこの一冊は実に素晴らしい。



『ツバキ文具店』

小川糸著 幻冬舎 <推薦者：銅谷孝子>

鎌倉で文具店と代書業を営む若い娘の話ですが物語の主人公は数多くの“手紙”です。

先代の店主の祖母に幼児期から、楷書行書草書と厳しい指導を受け上達したものの反抗期に家出しデザインを習い外国にも行き、祖母の死により鎌倉に戻り店を継ぎました。

宛名書き以外に、特定の個人宛の代書も多く、依頼人の意向をしっかりと確認して文を作り書きます。内容は千差万別ですので、切手封筒便箋ペン筆等は最適の品を使います。

鎌倉の四季の彩りと寺社や名物店等を年配の物知り友人達と歩く休日は楽しそうです。

生母を知らず、書の業を教え育ててくれた祖母とは反目したまま死に目にも合いませんでした。しかし祖母のペンフレンドでイタリアに住む日本人妻に宛てた祖母の手紙 113 通が日本の彼女に返されました。その手紙は毎回孫の成長と愛らしさが描かれてあり驚愕しました。長く長く誤解していた我が身を反省して亡き祖母宛てに書いた手紙はこの本の白眉となっています。



『つちはんみょう』

舘野鴻作絵 偕成社 <推薦者：長尾敏博>

小学生がよく利用する動物や花や昆虫の写真で飾った表紙で人気のある学習帳から、子どもが気持ち悪がっているという親や教師の声を受けて、メーカーが表紙から昆虫の写真を削除してしまったことがあった。昆虫が嫌いな人にとっては、本書の「つちはんみょう」などは名前も知らなければ、眼を背けたくなる存在でしかないだろう。だがこの小さな虫が成虫になるためには、私達の想像を超えた生命のドラマがあるのだ。四千匹が卵からかえり、成虫になるのはほんの数えるほどしかない。ほとんどが他の動物の餌食となっていくし、種を存続するには心もとない、あまりに他力に頼った運任せの生き方なのだ。それに自分が生き残るためには仲間を殺してしまう。著者はこの虫を八年も追いかけて生態を明らかにした。こんな不思議な世界も存在するのである。昆虫嫌いな人に是非読んで欲しいし、大人にこそ読んで欲しい絵本である。



『テレビが日本人を恥知らずにした』(雑誌『文藝春秋』2016年9月号)

永六輔著 文藝春秋 <推薦者：草川麗子>



九年前の論考を追悼再録した一文です。「僕はテレビの草創期に立ち会った一人ですが、テレビは本当に日本を恥ずかしい国にしてしまったと思っています」きわめつけは「美しい国、日本」と恥ずかしげもなく繰り返す政治家。

出てさえいれば、テレビは無名人をいとも簡単に有名人に仕立て上げ、その有名人を政治が公認して国会へと送り出す。何かとテレビに出たがる有名政治家と、草の根活動をする無名政治家を見きわめて、きちんと支持、「優しい国 日本」で僕はラジオを聞きながら死にたいと思う。

アメリカの友人に日本のテレビは何か食べているか、仲間と悪ふざけをしているといわれた。悪貨は良貨を駆逐するというが、NHKですららしさを失いつつある。親になったんじゃない、きみに親にさせていただいた。父の言葉。宝の山を掘り出すようなエピソードがきっちり詰まっている論考です。

『私の見た人』

吉屋信子著 みすず書房 <推薦者：三上栄次>



吉屋信子さんの人間観察記録。およそ五十人ほどの著名人たちとの出逢いが、吉屋さん独特の角度からの目線で描かれており、実話のオムニバスのこの一冊は『目で味わえるバイキング料理』でした。伝え聞いている表面的なイメージとは違い、各方面の歴史にその名を残した一人の人間の意外な横顔の数々は、親近感のわく人間くささがありました。

三浦環、新渡戸稲造、小林一三、九條武子、モルガンお雪、直木三十五、宮城道雄、横綱玉錦、菊池寛、沢村宗十郎、坂田三吉、春日とよ、中谷宇吉郎、久米正雄、平出英夫、美濃部達吉夫妻、高浜虚子、竹久夢二、湯川秀樹夫妻、古今亭志ん生、中村歌右衛門などなど…何らかのカタチで歴史に名前が残った人、そうでない人、みな同じ生身の人間。生まれ落ちたその時代時代の中で懸命に生きているのだなと私は感じました。

一期一会の大切さを後世の人々に呼び掛ける吉屋さんの声がどこからか…。

『正義・家族・法の構造変換 リベラル・フェミニズムの再定位』

野崎綾子著 勁草書房 <推薦者：竹花 透>

この本の優れた論文の著者は法曹実務家として、交通事故損害賠償における逸失利益の男女間格差の問題に直面し、フェミニズムからやがて法哲学研究者としての道を歩んでいたが惜しくも早逝された。著者は家族においても、正義と法が貫かれなければならないということ・そのためのひとつの方途として、契約原理における規律を主張されている。「女性の抑圧は、家族内の性別役割分業の影響が社会的領域、政治的領域に波及し、またそれが家族領域に悪い影響を及ぼすというサイクルのプロセスを有するものであるゆえ、そのプロセスを断ち切ることが、男女の権力関係を変革するのに重要な意味を持つ。」私がこの難しい本を紹介したのは、できれば中・高校生の方々に人の助けを借りてでも読んでほしい、という思いからである。無謀なことだとは思わない。深い苦しみ・深い渇きを持つ者に本当に必要なのは、難しさを理解しようとする勇氣である、と思う。

たくさんのご応募ありがとうございます。お寄せいただいた原稿は、掲載の都合により一部編集させていただきました。掲載は順不同になっております。ご了承ください。



第45回 樟まつり — 共に生き、共に学ぶ —

「樟まつり」は、図書館と生涯学習団体「アカデミー愛とぴあ」が共催で、2月に下記のとおり実施します。会場・入場方法など詳細は、市報1月20日号や図書館配布物をご覧ください。

日 時	催 事 ・ テーマ等 ・ 講師等	
2月1日(水) 午後2時～4時	文芸講演会	「啄木の発明ー短歌の主題ー」 佐佐木 幸綱 氏 (歌人, 国文学者)
2月4日(土) 午後2時～4時	歴史講演会	「戦国井伊氏5つの謎」 小和田 哲男 氏 (静岡大学名誉教授)
2月10日(金) 午後2時～4時	講演会	「学び続けるとは一心と脳のしくみ」 今井 むつみ 氏 (慶應義塾大学教授)
2月11日(土・祝) 午後1時30分～4時	第44回 市民歌会	「選評と講話」 雁部貞夫氏, 来嶋靖生氏, 小島ゆかり氏
2月14日(火) 午後2時～4時	文芸講演会	「国木田独歩と武蔵野」 赤坂 憲雄 氏 (学習院大学教授)
2月17日(金) 午後2時～4時	文芸講演会	「小説家の六次化プロジェクトー絲山秋子の戦略ー」 絲山 秋子 氏 (小説家)
2月20日(月) ①午前10時30分 ②午後2時	名画鑑賞会	「そして父になる」 監督・脚本・編集: 是枝裕和 出演: 福山雅治, 尾野真千子, 真木よう子, リリー・フランキー ほか
2月21日(火) 午後2時～4時10分	第45回 市民句会	「選評と俳話」 太田土男氏, 棚山波朗氏, 權未知子氏, 坊城俊樹氏
2月23日(木) 午後2時～4時	文化講演会	「水上勉と私の舞台表現」 佐々木 愛 氏 (女優, 劇団文化座代表)
展示期間		催 事 等
2月9日(木)～13日(月)		調布淡彩画展 (調布淡彩画の会作品発表)



電算システム入替えにより、新しいサービスがスタート！

！ 交通機関や電子マネーなどのＩＣカードが利用カードとして使えます

登録したＩＣカードでカウンターや自動貸出機での貸出しができたり、ぴゅー太（館内検索パソコン）での利用者メニューへのアクセスが簡単にできます。二枚目の図書館の利用カードとしてお使いください。



！ ぴゅー太（館内検索パソコン）や図書館ホームページに便利な機能を追加

●お気に入り

利用者メニューに自分の「お気に入り」の資料を登録する機能が追加されました。気になる本やよく借りる本などの情報を登録しておくことができます。

●読書記録登録

自分が借りた資料を記録することができる機能が加わりました。「以前借りたことがあるあの本をもう一度読みたいけれど書名を思い出せない…」よくありますよね。自分で登録した後に借りた資料の記録が残すことができます。

この機能を利用するかどうかは自分で選ぶことができますし、いつでも中止することができます。

「お気に入り」も「読書記録」も本人以外は見ることができません。

●パスワード登録

パスワードを新規登録する時や忘れてしまった場合は利用者メニューから自分でパスワードの登録や再設定ができるようになりました。

●かんたん検索

書名や著者など、単語をスペースで区切って入力し、検索できるようになりました。

●ハイライト表示

検索結果画面でヒットした単語がハイライトされ、見やすくなりました。検索結果を所蔵館などで絞り込むこともできます。



！ 座席システムを導入

中央図書館５階参考図書室の閲覧席やインターネット席をご自身で端末を操作して確保できるようになりました。

！ Wi-Fiの提供

中央図書館５階の参考図書室及び南側閲覧席で、調べもののために無線接続でインターネットを利用できるようになりました。



ちょうふ八景の選定

井 上 明 枝

調布市制30周年（昭和60年度）記念事業として「身近な景色を見直し、ふるさとの意識を高めよう」と「ちょうふ八景」選定が企画されました。候補地として挙げられたのは30景で、昭和59年11月5日発行の市報に写真付きで掲載されました。

「みんなで選ぼう、ちょうふ八景」と投稿を呼びかけ締め切りは同月27日。結果は年明けの市報1月1日号に発表されました。「市民の投稿を参考に映画監督の鈴木清順さんら21名の選考委員により決定しました。地域的バランスも配慮しました」。候補地と得票数は次の通りです。

- | | |
|-------------------|-----------|
| ①深大寺と神代植物園 | 6410票 |
| ②調布不動尊と国領神社の千年の藤 | 5006票 |
| ③四季の多摩川と花火 | 4192票 |
| ④実篤公園と記念館 | 3052票 |
| ⑤近藤勇史跡と野川公園 | 2857票 |
| ⑥花菖蒲と百花園 | 2450票 |
| ⑦布多天神と市 | 1921票 |
| ⑧上石原若宮八幡とはけの緑（写真） | 1529票 |
| ⑨調布駅前公園（噴水） | 1187票 |
| ⑩中央学園の桜並木と入間公園 | 988票 |
| ⑪瑠璃光薬師（飛田給薬師堂） | 945票 |
| ⑫調布飛行場と関東村跡地 | 934票 |
| ⑬野川サイクリング道路 | 817票 |
| ⑭ひきずり坂と深大寺自然公園 | 734票 |
| ⑮城山（深大寺城跡と水生公園） | 619票 |
| ⑯祇園寺と周辺の水田 | 554票 |
| ⑰多摩住宅と桜並木と堤防 | 552票 |
| ⑱糟嶺神社と明照院 | 548票 |
| ⑲滝坂（旧道） | 389票 |
| ⑳椿地蔵 | 369票 |
| ㉑航空技術研究所の桜 | 334票 |
| ㉒電通大西のくすの木並木 | 323票 |
| ㉓桜堤通りとスポーツ施設 | 314票 |
| ㉔品川通りと百日紅 | 249票（以下略） |
- こうして得票の多い順に「八景」がきまりました。



た。しかし数年後に「花菖蒲と百花園」が閉園し、京王フローラルガーデンアンジェに衣替え。このため、「百花園」は取消しとなり「糟嶺神社と明照院」が入りました。

八景選定の昭和60年ごろは日本

経済が伸び暮らしも向上し「国民の9割は中流意識（総理府調査）」という時代。それから30年たちますが、人気スポットとして多くの人々が訪れています。市観光協会発行のパンフレット「調布八景」は表紙に八景、中面に深大寺と神代植物園の特集、裏面は散歩道として「七福神めぐり」となっています。

また最新の「調布市観光マップ（第6版）」も詳細に市内案内しています。おすすめ4コースとして①深大寺・自然と歴史②「映画のまち調布」と多摩川③近藤勇史跡と野川公園④仙川・芸術文化をあげ、その軸は「八景」です。今年の11月号の市報は深大寺の「秋の和めぐり」を特集していますが、「中央図書館開館50周年」も大きく取りあげています。市制施行が昭和30年、その10周年記念事業として中央図書館が開館。東京オリンピックから2年後の昭和41年でした。

刊 行 物 番 号

2016-154

図書館だより 第242号

平成28年12月25日発行 [市内印刷]

発行 調布市立図書館

〒182-0026 東京都調布市小島町2-33-1

TEL 042-441-6181

<http://www.lib.city.chofu.tokyo.jp/>